令和４年
７月号-2

感染症情報

RS ウイルス感染症が増えています！

ＲＳウイルス感染症は、毎年秋から冬にかけて乳児で流行します。
今年は、７月に入り全国的に感染者が増えています。

症　　状：発熱・せき・鼻水など、いわゆる「かぜ」と同じ症状です
＊特に乳児や基礎疾患のある小児は、気管支炎や肺炎の兆候が見られるなど重症化しやすいため、早めの受診が大切です。

感染経路：せきや鼻汁の中にあるウイルスによる<u>飛まつ感染</u>、
子ども同士の触れ合いやおもちゃ・タオルの共用等による<u>接触感染</u>

感染予防は、手洗いと換気が重要です

注意したい症状

せきがひどくなる、「ぜーぜー、ヒューヒュー」という喘鳴を伴った呼吸困難の症状が出た場合は、細気管支炎、肺炎へと重症化することがあります。発熱や咳が持続する場合は、早めに受診しましょう。

就学児～大人が注意したいこと

かぜのような症状であることが多いため、RS ウイルス感染者であると気付かないことがあります。

せき等の呼吸器症状がある場合は、マスクを着用し、可能な限り０歳児と１歳児との接触を避けることが乳幼児の発症予防につながります。

※　RS ウイルス感染症と同じように上気道炎、気管支炎や肺炎などの呼吸器感染症を引き起こす、<u>ヒトメタニューモウイルス感染症</u>が一部の施設で流行しています。

＜問合せ＞荒川区保健所保健予防課感染症予防係

TEL03(3802)3111 内線 430

【感染症発生情報（毎週更新）】　荒川区ホームページ
トップページ→健康・医療・衛生→感染症→荒川区感染症発生情報（毎週更新）